

会 議 録

案 件	第 2 回市貝町自治基本条例町民検討委員会		
日 時	平成 28 年 8 月 24 日（水）18:00～19:40	場 所	大会議室
出 席 者	委員 13 名、町長、事務局 4 名	傍 聴 者	0 名

内 容

1 開会【進行：事務局】

2 あいさつ

（委員長）：市貝町での自治基本条例制定の動きが始まってはや二カ月が経過した。私としても市貝町に「通う」という意識ができてきたところである。今回の検討委員会では二回行った作業部会での活動の報告を行うことから始めるが、議論に関しては非常によいスタートが切れたと考えている。次回 9/26 の作業部会では前文の検討を行う予定である。先の高校野球甲子園大会ではめでたく作新学院が優勝したが、この勝利は攻撃と守備が絶妙に絡み合っただのことだ。我々検討委員会も作業部会と相互に協力し合いながら条例制定に向かっていきたい。また、8/27 には我々宇大の作業部会を「サシバの里いちかい夏まつり」に招待いただいている。そこで得たものも今後活かすことができたらと思う。

（町長）：委員の皆様には第 2 回検討委員会にお集まりいただき、感謝する。この自治基本条例は 5 年前から計画しているものだが、委員会発足後、皆様の協力もあり大変順調に進行している。過去 2 回の作業部会の経過をまとめたものに目を通したが、学生の方々はよい視点を持っており、忌憚のない貴重な意見をあげてもらった。町づくりへの意識と知識、プロセスをもってよいワークショップを行い、優れた自治基本条例の制定に協力いただきたい。

3 作業部会検討事項報告

ここまでの作業部会での議論の経過を、前回作業部会で各グループの代表として発表を行った二名の委員が報告した。

4 議題

・議事進行については、要綱第 6 条第 1 項の規定により、委員長が行った。

（1）市貝町の現状と課題について

委員を 2 グループにわけてのグループワークで議論を行った。メモ用紙に意見を記述しそれを模造紙に貼ることでグループの意見を形作る形式をとった。なお、議論のやり方は各々

のグループの裁量に任された。30分ほど時間をとった後、発表を行った。

グループAの発表

- ・グループの代表が発表した。

(委員)：作業部会でのグループBの議論を引き継ぐ形で、「サシバのサッチャン」の町づくりにおける位置付けを議論した。作業部会ではサシバが今後いなくなる可能性や鳥獣被害の拡大をふまえた上で、「サッチャン」をこのまま町づくりの軸に据えてよいかどうかという話があった。それに対し今回我々のグループとしては、「サッチャン」を今後軸にしていく覚悟を持つべきだという方向でまとまった。たとえサシバがいなくなっても、「サシバのいた土地」として「サッチャン」を使うことは可能である。もちろん町としてもサシバが生息する土地の環境維持を行っていく必要がある。それには地域のつながりや若者たちの自発的な動きが不可欠であり、地域や若者が動くには自治会の協力がいる。作業部会に引き続き自治会のメリットやデメリットの話題もあったが、自治会があるからこそ緊急時に統率がとれ、こうした地域の協力も可能になる。地域の食材PR、環境保護、サシバの里ブランドのPR、そうしたことを「サッチャン」を中心に行うことで、作業部会で話題となった町づくりのコンセプトの無さ、中長期的な視点の乏しさを解消することができるのではないか。

グループBの発表

- ・グループの代表が発表した。

(委員)：こちらは作業部会で話題にのぼった「ブランド力」を中心に話し合った。まず、市貝町の長所、売りを「①今あるもの」、「②5年後、10年後に残っているもの」に分けて挙げていくことを行った。①にあたるものは今後無くなってしまう可能性があり、保持していく取組の努力が必要である。②にあたるものは今後減多なことでは揺らがない、市貝町の柱と言えるものであるが、数は少ない。惣誉は②にあたる。惣誉はすでに全国的に非常に高い評価を得ており、環境で揺らぐものではない市貝ブランドのトップである。その一方で、①の例はいくつかあるが、積極的に保護していかないと消えてしまうものであるといえる。市貝町の長所として頻りに挙げられる「豊かな自然」はこちらにあたる。豊かな自然が維持されているのは人々の努力があつてのことだ。また、町のPRで浸透しつつある「サシバの里」というキャッチフレーズも、まだ完全に根付いたとは言い難い。さらなる浸透、保持のためには様々な人の関心を集める必要があるが、これまでのように「行政主導」「広報誌まかせ」という在り方では限界がある。外部の人たちから関心を集めるためには町民からの自発的な発信が求められる。地域文化の重要な一部である行事は徐々に姿を消しているが、子どもたちの思い出となるイベントは貴重である。例えばどんど焼きなどはツアーの一部に組み込むことで行事の継続、PRに役立つだろう。

その他、市貝町における自然の活用や課題についても話し合った。芳那の水晶湖に併設されているステージは現在ほとんど活用されておらず、うまく利用すれば水晶湖を芝ざくら公園と並ぶ観光の目玉にし、互いに相乗効果を生み出していくこともあり得る。また、豊かな自然を観光に活かすために、「ここからはきれいな写真が撮れる」というような情報を掲載した観光用自然マップを作成してはどうか。加えて課題として、市の堀用水路のごみ問題が挙げられた。ごみの多くは他市町から流れてきたものではあるが、環境や景観への影響は無視できない。市貝町民も関心を持たなければならない。自然保護の観点から言うと、財源の確保は急を要する課題である。現在の自然は農家の方々の取組で保たれているものだが、徐々に農家も数を減らしている。補助金を用いて農家を保護することで、地域産業と自然に対する保護を行う必要がある。

(2) 生徒、学生等との意見交換会について

事務局より資料2をもとに次回検討委員会の開催日に行う予定である中高生や大学生を交えた自治基本条例に関する意見交換会の案が説明された。

(質疑応答・協議)

(委員長) : このような意見交換会は非常に斬新な試みで、価値のあるものだ。とはいえ、この場に中高生を呼んですぐに盛んな発言を期待するのは酷である。そこで、我々はあえて発言を控え、中高生が発言しやすい空気を作るために聞き役というスタンスで臨むことを提案したい。必ずしも一切発言しないということではなく、彼らの言いたいことを引き出していくような形の協力を願いたい。今回の「模造紙とメモ」というやり方はメモを貼るという過程でグループとしてまとまりが出るため、発言ムード作りにも適している。継続してはどうか。

(委員) : 資料の2枚のワークシートを見たが、最終的にグループの意見を明確にするために、「こういうことをして、こういうまちにしたい」というグループのビジョンを書く欄があるとよりよいのではないか。

(委員長) : 同意する。ぜひワークシートに取り入れたい。

(委員) : 以前に高校生を参加者としてこのような会を開催したことがあり、その際に彼らから建設的な意見を引き出す大変さを感じた。「自分のまちをどうしていきたいか」というテーマに「良いまちにしたい」「住みやすいまちにしたい」というあいまいな意見に終始してしまった。また、そのためにどうしたらよいか、という議論にも答えることが困難なようだった。彼らはまだ町に対してもまちづくりに対してもしっかりとした視点を持っていない。ワークシートのテーマ(1)「好きなところ、嫌いなところ」は多くの発言が見込まれるが、テーマ(2)で具体的な方策を考えるととなると厳しいと思われる。例えば「こんな町になってほしい」「そのために自分になにができるか」「大人になったらなにをしなければいけない

いか」という3つのステップで考えさせてみてはどうか。

(委員長) : 確かに学生から意見を引き出す難しさはあるだろう。彼らの視点が定まっていないのは仕方がないことで、彼らにとっても考えやすい「好き、嫌い」の観点からスタートし、改善のための現実的な方策を考えていくという方向に進みたい。そこでこのワークシートを改良しテーマ2に「市貝町の好きなところをさらによくするにはどうしたらよいか」、テーマ3に「市貝町の嫌いなところをなくするにはどうしたらよいか」という形式を提案したい。

以上の協議後、異議なしで議事内容は承認された。

(委員) : 参加予定者に高校生が挙げられているが、参加のあてはあるのか。

(事務局) : JLCのジュニアリーダーに参加してもらう予定である。

(委員) : 大学生の部会員は町内出身か、他市町出身か。

(事務局) : 全員が他県、他市町出身となっている。

5 その他

6 閉会

以上、会議の概要について記録いたします。

その他詳細については、会議資料をもって会議録とします。